「徳川美術館部長セクハラ」

審判申し立て 本人否定

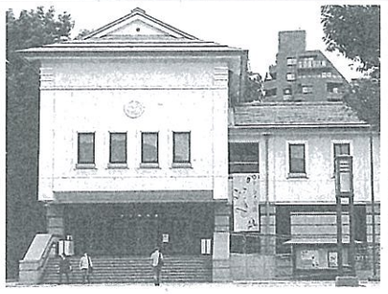
尾張徳川家が誇る至宝を所蔵、公開する徳川美術館（名古屋市東区）の男性管理部長（六〇）から度重なるセクハラやパワハラを受けたとして、女性職員二人が十一日、美術館を運営する財団法人「徳川黎明会」（東京都豊島区、徳川義崇（よしたか）会長）を相手取って、計四百万円の損害賠償の支払いを求め、名古屋地裁に労働審判を申し立てた。管理部長は全否定している。

申し立てたのは、管理部に勤める四十代と五十代の女性。申立書によると、管理部長は二〇一三年一月から今年五月までの間、二人に対し、肩や手を触ったり、ホテルや旅行に誘うなどした。また、ボーナス査定時に「パワハラ、セクハラに付き合えば十万円アップ」と発言。「ジャズクラブに行こう」などと誘い、断られると「業務命令だ。出世に関係する」と威圧するなどしたと主張している。

そのうえで「管理部長の行為は女性職員の人格権を侵害する違法行為。黎明会は使用者責任があるのに、セクハラとパワハラを放置し、職場環境を改善しなかった」としている。

管理部長は大手都市銀行を退職後の一一年十月、黎明会から徳川美術館に派遣され、翌年四月から業務部長（現・管理部長）を務めている。

管理部長は取材に「（ハラスメントの）事実はない。既に内部で調査されていて（女性職員らの主張は）ほとんどうそだと判明している。ほぼ解決済みだ」と話した。



名古屋市東区の徳川美術館

徳川美術館　尾張徳川家に伝わる徳川家康の遺品や「源氏物語絵巻」など、国宝9件、重要文化財59件を含む1万件以上を所蔵する。尾張徳川家は家康の九男、義直を始祖とする徳川御三家の筆頭格で代々、尾張藩主を務めた。第22代当主の徳川義崇氏の曽祖父、義親氏が伝来の宝物の散逸を危惧し、徳川黎明会を設立。1935年、徳川美術館を開館した。

注意の副館長に退職勧奨

女性職員がセクハラ、パワハラ被害を受けたとして労働審判を申し立てた徳川美術館では、十五人の女性職員のうち、当事者の二人を含む六人が管理部長のセクハラを証言する陳述書を提出した。一方で、管理部長にハラスメント行為をやめるよう注意したとされる男性副館長（五〇）が十一日、徳川黎明会から退職勧奨されるなど「お家騒動」に発展している。

申し立てた四十代女性は二十五年間、美術館で勤務。「ハラスメントに悩んでいたが、契約社員という立場を考え、我慢していた」と話す。

関係者によると、女性らは副館長に、ハラスメントについて相談し、副館長は管理部長に注意したが、管理部長は行為を否定。黎明会ナンバー2の専務理事は「管理部長がそんなことをするはずがない」と、逆に副館長を叱責したという。女性は「副館長への処遇はあまりにひどい。このままでは美術館の運営はできなくなる」と懸念し、申し立てに踏み切ったと説明する。

副館長は、黎明会の徳川会長にも管理部長の行為を訴えたという。「会長は職員を守ろうと、できる限りの努力をしていただいた。だが管理部長らは会長の指示や判断を軽視し、圧力をかけることもあった」と主張。「財団上層部が管理部長の行為を組織的に隠し、私たちに混乱の責任をかぶせている」として、退職勧奨に応じる気はないという。

黎明会は取材に「退職勧奨したのは事実。理由は簡単には言えないので後日、きちんと説明する」と話した。

美術館の館長も務める徳川会長は取材に「詳細を把握していないので現時点でコメントできない。今後、内容を精査し、心ある対応をしたい。財団の社会的責任において適切に対応したい」としている。

労働審判は、労働関係のトラブルを迅速に解決する手続きとして〇六年四月に始まった。裁判官一人と労働問題専門家二人が審理し、話し合いによる調停か審判による解決を目指す。結果に異議があれば訴訟に移行する。

校舎から転落、中2重傷

滋賀・高島 背景にいじめか

滋賀県高島市の中学で五月、いじめを受けていた二年の男子生徒（一三）が校舎三階から転落し、両足や腰の骨を折るなどの重傷を負っていたことが分かった。自分で飛び降りた可能性が高いという。市教委が十一日、会見で明らかにした。

市教委によると、生徒は五月二十六日午前の休み時間中、三階の教室の窓から落ちた。現在も入院中。

学校はいじめ防止対策委員会で、聞き取り調査などを実施。その結果、転落した生徒が複数のほかの生徒から「プロレス技で首を絞められる」「チョークの粉をかばんにかけられる」「筆箱の中身を隠されたり、壊されたりする」などのいじめを一年時から受けていたことが分かった。

市教委は、転落といじめに「直接的関連があると推測される」と説明。今後、臨床心理士や弁護士を対策委に加え、詳細に検証する。

転落した生徒は、小学校時代からいじめを受けていたとの報告が進学時に中学に上がっていた。中学は、進学後のいじめを把握していなかった。生徒が通う中学の校長は「日ごろからいじめ対策に取り組んできたが事案が上がってこなかった。どこでも（いじめは）あるんだという思いを強く持つ必要がある」と反省している。

震度7、ミサイル、テロ… 次々来

熊野市 警報を誤配信

三重県熊野市は十一日、全国瞬時警報システム（Jアラート）の機器の更新の際、業者のミスで、最大震度7の地震速報やミサイル着弾への警戒、津波警報など計十二通のメールを市民に誤って配信したと発表した。

市によると、同日午後一時二十分ごろから九分間で、震度4～7の六段階の地震速報のほか、ゲリラ攻撃や航空攻撃、ミサイル着弾、大規模テロの可能性を告げる国民保護情報、津波注意報のメールを次々に流した。

受信した市職員が気づき、政情報のメール登録者四三人に訂正メールを送った。

誤情報を受け取った市民に二十件を超える問い合わせがあった。市は業者に顚末書（てんまつしょ）を求める。

市担当者は「大変ご迷惑をかけし、深くおわび申し上げる」と話した。

遺棄現場から被害者の携帯

熊本の高3遺体

を見つけていた
査関係者への取
た。
没者を共ボ

水難防止は啓発頼み

木曽川3人死亡「川に規制なじまず」

岐阜県各務原で小中学生三人事故を受け、川国土交通省は十周辺の河原と堤に、川遊び中の掛ける看板を増難事故の多い地禁止の規制はな止は啓発頼みる。

川の深みにはれる人や堤防でいた看板で、子かるように川の説明した。これはあったが、文た。地元住民の

トップカメラ盗品買い取り

名古屋地検は